

単 元 名	的当てゲーム	配当時間	5時間
単元の目標	(1) ルールを守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めようとする。 (2) ゲームを楽しむための簡単な作戦を工夫することができる。 (3) ボールを転がしたり、投げたりして楽しく的当てゲームをすることができる。		
単元を構想する上での留意点	的当てゲームは、ボールを転がしたり、投げたりして的に当てるゲームである。 1年生の児童は、投力がまだしっかり身についていない。また、ボールを怖がる児童も多くいる。そこで、的当てゲームを行うことにより、ボールを力いっぱい投げ る経験をさせたり、ボールにたくさん触れ、ボールに対する恐怖心をなくしたりする。		
単元展開例			
準 備	ドッジボール、ビーチボール、ミニソフトバレーボール、段ボール箱、カラーコーン、ハードル、対戦表 など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1 的当てゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 友達と仲よく的当てゲームを楽しもう ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○1人でボールを使って遊ぶ。 ・上に投げて捕る。 ・ボールをつく(ドリブル) ・転がしたボールを追いかけて捕る。 ・的当て (箱、カラーコーン) ・的通し (ハードル) など		・ルールやマナーを守って、友達と仲よく的当てゲームをすることを知らせる。 ・ドッジボールの他にビーチボールやミニソフトバレーボールなど、いろいろなボールを用意する。 ・はじめは教師が遊び方を紹介する。 ・教師が示した遊び方を変えたり、友達の遊びをまねたりして工夫させる。 ・おもしろい遊び方をしている児童を紹介したり、その遊びを全員で行ったりして楽しく活動させる。	
2 ボールを使って遊ぶ。(ねらい1) ○1人でボールを使って遊ぶ。 ○2人以上でボールを使って遊ぶ。 ・2人組で対人パス ・ボールの取り合い ・守りをつけて的当て など ○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと ・できたこと など		・グループは自由につくらせる。 ・いろいろな投げ方をさせる。	
3～5 簡単なルールで友達と仲よく的当てゲームを楽しむ。(ねらい2) ○チームをつくる。 ○チームでボールを使って遊ぶ。 ○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール ・マナー ・対戦相手		楽しくボール遊びを行う活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・1～2時に行った遊びをチームで選んで行わせる。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる。 ・ルールの例 ボールはミニソフトバレーボール すべての的を早く台から落としたほうが勝ち ボールは1人1つ使う 的はカラーコーン、ダンボールの箱な	

○チームのめあてや作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 ・ルール ・マナー ・めあて ・作戦 など ○第5時は、単元のまとめもする。	ど台は、生活科で使用する高さ50cm～60cmのテーブルなど ・めあてを立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームのめあてにそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 評ゲームを通して、「技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる。
--	---